

: 委員からのご意見

: 事務局の回答

【これまでの検討状況について】

上部利用の整備水準のイメージは、境川遊水地と同様か。

大庭遊水地に近い整備水準と考えている。

火気の使用は、許可するのか。

火気使用等の維持管理内容と使用方法については、来年度以降の議題とする。

子供が自主的に遊びを創出できるような、何も無い空間が欲しい。

地域懇談会でも、子供に遊び場の提供をと考えているが、何も無い空間という視点では考えていないと思われるので、この意見を地域懇談会に伝える。

都市公園的な印象である。水害を防ぐために整備される施設であるにも関わらず、守られている意識が芽生えるような計画ではないように感じる。

細かくデザインせずに、藤沢市の全体計画を活かせるようにした方が良いのではないか。

「流れている所だけが川ではない」という総合治水の基本のもと、遊水地を取り囲む状況をも含めて、川のことを教える機能が良かった方が良い。

施設を固定化しないで、次の時代に柔軟に変化できる整備メニューにした方が良い。

川の整備の思想を流域全体で考え、それを反映させることが望ましい。

各池の雰囲気はみな違う。現在、A、B、C、D池と呼んでいるが、できれば各池の特色に合った愛称を付けてもらえば、親しみやすくなり、良いのではないかと。学校教育の中で、川に対する付き合い方を子供たちに教育して欲しい。

維持管理者を早く決め、維持管理をどうするかということを含んだ議論をするべきだ。

維持管理のことは、来年度以降の大きな検討テーマとして議論していく。

【今後の予定について】

利用料金を徴収するか否かにより、維持管理内容も変わってくるが、上部利用を有

料にできるか。

藤沢市が管理した場合、有料にすることは、可能である。

上部利用計画の導入施設を考えるにあたり、遊水地の法面勾配を変更して利用面積を変えるようなことは考えられるのか。

用地買収状況に応じて多少形状が変わる可能性があるが、基本的には変わらない。法面の勾配等の調整は可能である。

今回の計画ではどの程度のスケールで検討するつもりか。

来年度以降、細かなスケール感を持った施設の検討や維持管理の検討を行う。

地域懇談会においてB池で親水広場を検討しているが、「親水」という概念が少し異なると思う。

今年度は、なんとなく水辺の親水空間があった方が良く、というところまでの話である。来年度以降、深く掘り下げて検討する場を設ける予定である。

水辺についての専門的な検討の場では、勝野委員に直接アドバイスをもらおうとよい。

お願いしたい。B池については、アドバイザー会議と地域懇談会の中間的な立場のワーキンググループを作りたい。

小学校のグラウンドは、取り合いになるくらい頻繁に貸している。小学校区以外からの利用要望も多く、この遊水地にグラウンドができると、この地域の方がグラウンドを使いたくても、実際に使うのは他地域の方になるということが考えられる。

地域懇談会の中には、社会体育協会や市のスポーツ協会、レクリエーション協会の方が入っており、使用の方法等については地域の意見を吸い上げる形としている。

下土棚遊水地の上部利用は、これまでの大庭遊水地の経験から言うと、いずれにしても藤沢市が管理していく。上部利用を通して、藤沢市民のスポーツレクリエーションのニーズに対応する方式になろうかと思う。維持管理をする際にハイコストにならないようにして欲しい。特にピオトープについては、冠水しても維持できるようなものを考えるといった、具体的な議論を行って頂きたい。

～ 以上 ～